

2013年9月5日

各 位

会 社 名 大塚ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 樋口 達夫
(コード番号：4578 東証一部)
問合せ先 IR部 IR担当部長 木村 琢磨
(TEL 03-6361-7411)

大塚製薬 米国アステックス社を買収

当社の完全子会社である大塚製薬株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岩本太郎、以下「大塚製薬」）は、アステックス ファーマシューティカルズ インク（本社：米国カリフォルニア州ダブリン、会長兼CEO：ジェームス S.J. マヌーソ、以下「アステックス社」）に対して、大塚アメリカ インク（本社：米国カリフォルニア州サンフランシスコ、大塚製薬の完全子会社、以下「大塚アメリカ」）の完全子会社を通じて、現金による株式公開買付け（以下、「本公開買付け」）及びそれに続く現金を対価とする合併（以下、「本買収」）を実施することにより、アステックス社を買収することを同社と本日9月5日（日本時間）に合意しましたので、下記の通りお知らせします。

記

1. 本買収の目的と意義

アステックス社は1991年に設立されたバイオベンチャーで、英国ケンブリッジにフラグメント分子設計創薬研究所、米国カリフォルニアに臨床開発部門を有する企業です。創薬研究所については、独自に進化させたフラグメント分子設計創薬技術を有し、疾患に関与している標的タンパク質に対して従来のハイスループットスクリーニングでは見出すことが出来なかったリード化合物を、短期間で創り出すことを可能としています。その結果、過去8年間で8つの“がんと中枢神経領域”における新規化合物が臨床開発段階に移行しています。現在、フェーズ2に4化合物、フェーズ1に4化合物あり、そのうち4化合物は、グローバル企業（アストラゼネカ、ノバルティス、ヤンセン）とのアライアンス体制のもと、臨床開発が行われています（表1参照）。アステックス社のフラグメント創薬技術と、「エビリファイ®」を生み出した当社の強みである中枢神経領域の研究を組み合わせることによって、今後は新たな作用メカニズムの中枢神経領域の医薬品を届けられると期待しています。

臨床開発部門においては、骨髄異形成症候群・急性骨髄性白血病治療剤「静注ダコジェン®*」（一般名：デシタビン、2012年の全世界売上約280百万米ドル）の開発に成功し、現在は、安全性と有効性の改善を目的としたデシタビンのプロドラッグ皮下注製剤SGI-110（DNAメチル化阻害剤）や、がん細胞の増殖に関与しているヒートショックプロテイン90（HSP90）阻害剤AT13387がフェーズ2段階にあります。このように臨床開発力にも優れたアステックス社を買収することで、がん領域のポートフォリオを拡充するとともに、当社の抗がん剤開発体制を強化していきます。

*ダコジェン®は、北米においてはエーザイが、その他の地域においてはヤンセンが販売しています。売上はアステックス社のアニュアルレポートを参照。

大塚製薬代表取締役社長 岩本太郎は、「今回のアステックス社の買収は、英国ケンブリッジ研究所にあるフラグメント分子設計創薬技術と、米国カリフォルニアにあるがん領域の臨床開発部門を獲得することにより、当社の目指すがん領域のポートフォリオ拡充のみならず、中枢神経領域の創薬研究の強化にもつながるものと期待しています。アステックス社の研究者の情熱によって生み出された“独自のフラグメント創薬技術”と、“がん領域における臨床開発力”は、当社の企業文化である“創造と実証”そのものです。今後も大塚製薬はアステックス社の独自性を尊重し、大塚製薬のさらなる成長につなげていきたいと考えています。」と述べています。

アステックス社のジェームス S.J. マヌーン CEO は、「我々は、大塚製薬の財務資源と臨床開発能力を得ることで、当社のがん領域のポートフォリオ、パイプライン、そして創薬能力が高まると信じています。本買収を通じて当社株主の価値を最大化し、従業員が創出した価値を具現化します。しかしながら、最も重要なことは、大塚製薬と当社の医薬品の研究開発および商業化のプラットフォームを一体化させることで、患者さんが恩恵を享受できることです。」と述べています。

表1：アステックス社により創出された臨床移行化合物

	開発コード	作用機序	臨床開発会社	開発ステージ
1	SGL-110	DNA メチル化阻害剤	アステックス	P2
2	AT13387	HSP90 阻害剤	アステックス	P2
3	AT7519	CDK1/2/9 キナーゼ阻害剤	アステックス/ノバルティス	P2
4	LEE011	CDK4/6 キナーゼ阻害剤	ノバルティス	P2
5	AT9283	JAK/Aurora 阻害剤	アステックス	P2
6	AZD5363	PKB/AKT キナーゼ阻害剤	アストラゼネカ	P1
7	AZD3293	BACE 阻害剤	アストラゼネカ	P1
8	AT13148	AGC キナーゼ阻害剤	アステックス	P1
9	JNJ42756493	FGFR キナーゼ阻害剤	ヤンセン	P1

*2～9の化合物はフラグメント創薬技術により、1の化合物はプロドラッグ技術により創製された。

2. アステックス社株式取得の方法および日程

1)公開買付け実施者

オータム アクイジション コーポレーション (Autumn Acquisition Corporation)

本買収のため、当社は、大塚アメリカの完全子会社として、買収子会社オータム アクイジション コーポレーション (米国デラウェア州法人) を設立しました。本公開買付け終了後、オータム アクイジション コーポレーションはアステックス社に吸収合併され、アステックス社は当社の連結子会社となる予定です。

2)公開買付けの対象会社

アステックス社 (Astex Pharmaceuticals, Inc.)

3)買付けを行う株式の種類

普通株式

4)買付け価格

1株あたり 8.50 米ドル

5)買付けに要する資金

約 886 百万米ドル

注) アステックス社発行済株式総数 (完全希薄化後ベース) に4)の1株あたり買付け価格を乗じた金額を記載しています。

6)買付け期間

最初の買付け期間は、本件にかかるアステックス社との最終合意の日 (日本時間 2013 年 9 月 5 日) から 10 営業日以内に開始され、開始後 20 営業日で終了します。

なお、買付け条件が充足されない場合は、買付け期間の延長を実施する可能性があります。延長期間は 2014 年 1 月 31 日を越えることはありません。

7)下限応募株式数

オータム アクイジション コーポレーションは、アステックス社の発行済株式総数の 50%超の応募があった場合に買付けを行います。

3. 本公開買付けによる当社保有のアステックス社株式数の異動

本公開買付け前保有株式割合 0%

本公開買付け後保有株式割合 100%*

* 本公開買付けにより、アステックス社株式の 100%を買い付けることができた場合

4. アステックス社概要

商号	Astex Pharmaceuticals, Inc.
設立	2011年4月6日
代表者	取締役会会長兼CEO ジェームス S.J. マヌーズ
所在地	4140 Dublin Blvd., Suite 200, Dublin, CA 94568, USA
資本金	95千米ドル (2013年6月30日現在)
発行済株式総数	普通株式 94,934,406株 (2013年6月30日現在)
決算期	12月
従業員数	137名

1) 最近事業年度における業績の動向

(単位: 千ドル)	2012年12月期	2011年12月期	2010年12月期
売上高	83,159	66,914	52,972
営業利益	△7,052	2,412	15,886
当期純利益	8,247	5,542	16,273
総資産	275,164	276,948	129,098
純資産	236,943	220,001	121,612

2) 主な事業内容

アステックス社は、米国カリフォルニア州ダブリンに本社を置き、ナスダックに上場しているバイオベンチャー企業です。同社は、2011年7月に、ダコジェン®を開発したスーパージェン社 (SuperGen, Inc.、1991年設立、米国) が、アステックス セラピューティック社 (Astex Therapeutics Limited、1999年設立、英国) を合併し設立されました。同社は、X線結晶構造解析技術を進化させ、従来のハイスループットスクリーニング (HTS) に頼らない独自のフラグメント創薬技術を確立し、これまでにがん・中枢領域において複数の化合物を創製し、臨床開発を行っています。

3) アステックス社の創薬基盤

アステックス社は、フラグメントベースの創薬技術のリーディングカンパニーとして世界から評価されています。同技術は、現在のハイスループットスクリーニングでは薬理活性が測定できないような小さな分子（フラグメント）と標的タンパク質の結合を、立体構造解析で測定するスクリーニング技術から成ります。この小さなフラグメントの組み合わせ技術によって、より早くリード化合物を創製することを可能にします。

5. アステックス社の本公開買付けに関する合意の有無

アステックス社は2013年9月4日（米国西海岸時間）開催の同社取締役会議において、本公開買付けに賛同する旨を全会一致で決議しています。

6. 業績への影響

本買収が当社の連結業績に与える影響については、詳細が確定次第、改めてお知らせいたします。

以上

注意事項

本プレスリリースに記載されているアステックス社の株式の本公開買付けはまだ開始されていません。本プレスリリースは、証券の買付けの応募、又は売付けの募集を勧誘するものではありません。アステックス社の株式の本公開買付けは、大塚製薬の間接子会社であるオータム アクイジション コーポレーションが米国証券取引委員会（以下「SEC」）に届け出る Schedule TO による公開買付説明書（買付け提案、送達状、その他の関連公開買付け文書を含む。）に従って実施されます。本公開買付けの開始時に、アステックス社は、本公開買付けに関して Schedule 14D-9 による意見表明書を届け出ます。公開買付届出書および意見表明書は、本公開買付けに関する判断をする前に、注意深く熟読し、考慮すべき重要な情報が含まれています。これらの公開買付届出書及び意見表明書は、アステックス社の株主に無料で送付されます。投資家およびアステックス社の株主は、オータム アクイジション コーポレーションが SEC に届け出る公開買付届出書およびこれらの資料およびその他の文書を（入手可能となった以降）、SEC のウェブサイト <http://www.sec.gov> から入手することができます。

将来見通しに関する注意事項

将来の売上および業績に関する見通しなど、本プレスリリースに含まれる記載には、1995年米国私的証券訴訟改革法（the Private Securities Litigation Reform Act of 1995）の定義における「将来予測情報」

（forward-looking statements）が含まれています。本プレスリリースに含まれる将来予想情報には、本取引により生じる利益の予測、本取引に係る申請と承認の時期に係る予測、本取引の完了の時期に関する予定、なお、これらの状況に対する仮定に関する表現が含まれています。期待する、見込みである、信じる、計画する、予定である、見通しである、計画である、予測する、展望するなどの単語およびこれらと同様の表現は、かかる将来予測情報を示すものです。このお知らせにおける記載は、既知または未知のリスク、不確実性、ならびに実際の結果、収益、業績または達成度を、かかる将来予測情報により明示または暗示された将来の結果、収益、業績または達成度から大きく乖離させるその他の要素を含んでいます。かかる要素には、一般的な業界および市場の状況、金利および通貨為替

変動などの一般的な国内および国際的な経済条件、競合他社が取得する技術的優位性および特許、新製品開発・臨床試験における固有の困難性、製品の安全性および効果に関するクレームや懸念、規制上の許認可の取得、国内外の保健医療改革、国内外の事業に影響を与える法規制、市場の受容・第三者の同意の獲得失敗などが含まれます。予測と違う結果をもたらすであろうリスクや不確実性には次のようなものが含まれています。公開買付け・合併のタイミングに関する不確実性、公開株式に応じるアステックス社の株主数の不確実性、競合の買付けが行われるリスク、規制機関による本取引開始の禁止、遅延、承認拒否を含む契約条件の不成立または不履行の発生の可能性。当社は、今後生じる事象や状況を反映しまたは予測され若しくはされていなかった事象の発生を反映して将来予測情報を更新または訂正する義務を負うものではなく、かかる義務を明確に拒否します。